



みはら玉手箱



「平成27年度市民学芸員実践講座」の各グループ活動中ですが今回は、平成27年11月以降の活動状況や講演会並びに、情報発信グループの調査結果を報告します。

市民学芸員活動中間報告会と城下町ウォーク

日時 平成27年11月01日(日)
10:00~12:00 中間報告会(於 サン・シープラザ 2F 大会議室)
13:00~15:00 城下町ウォーク(西町方面)

活動中間報告会

… 各グループから以下の報告がありました。



情報発信グループは、活動成果を紹介する文化課のホームページ「みはら玉手箱」において、第12号と第13号が発行済で、第14号を準備中。



三原古写真収集グループは、紹介範囲を発行済の旧市内から本郷・大和・久井などの新市内に拡大して、現在収集活動中。



宮本常一写真収集グループは、同氏の生まれ故郷である周防大島の協力をあおいで、企画展を開催すべく、写真と情報収集を継続中。



城下町体験グループは、当日午後の「第3回城下町ウォーク」について、コースと二つの寺における見どころ等を紹介。



城館体験グループは、平成28年3月27日開催予定の「高山城見学」に向けて、準備中。



三原遺産研究グループは、100の遺産登録を目標に掲げ候補を搜索中。



市民学芸員運営グループは、今年度は講演会や展示会が多く、受付など補助作業で多忙であった。

城下町ウォーク

西大手門跡→正法寺→大島神社→宗光寺→山脇邸
※正法寺の「大般若経600巻」
宗光寺の「小早川隆景画像掛軸」
山脇邸の古建築構造物など貴重な遺産を解説付きで拝見できました。

【質問受付】
この「みはら玉手箱」への質問等は
三原市教育委員会文化課
bunka@city.mihara.hiroshima.jp宛に
お寄せください

講座実績と予定

平成27年12月06日(日)…済
文化財講演会「小早川正平」
講師 元島根県教育委員会
西尾 克己氏

平成28年1月24日(日)
「里海講座」
「市民学芸員講座閉講式」
平成28年2月21日(日)
「佛通寺文化財講座」

みはら おもしろクイズ



(解答は次頁の欄外にあります)

三原の大將軍

糸崎三丁目の三菱病院に向かう急な坂道を登りきった辺りに、約15cm角で高さ約30cm程の小さな石柱があり、表面に大將軍社跡と刻まれています。小さな石柱ながら、名前がめずらしいので以前から気になっていました。この度、地元の方のご案内で、様々なことが判ったので報告します。

〈大將軍とは?〉 … たいしょうぐん、だいしょうぐん 地元では だいしょうごう、だいじょごさん

「広辞苑」等によると、
「曆の八将神の一神、太白(金星)の精で、この神の在る方向は三年間変わらず、三年塞がりとして万事に忌む」と記載されています。

〈大將軍神社の移転〉

現在糸崎には、次の3つの大將軍神社があります。

- 1.大將軍神社
- 2.下大將軍神社
- 3.大將軍若宮神社

この中、1番は移動しておりませんが、2番は三菱三原病院設立時といいますから昭和37(1962)年頃、又3番は昭和32(1957)年に完成した国道2号線の古浜塩田埋め立て用大量土砂が糸崎のこの地から掘り出されたので、止む無く右の地図に示す元の位置から現在地に移されました。



「大將軍社跡」の石柱

刀工三原正家の井戸

福寄御酒井戸

.....昔、糸崎神社の秋の大祭にはこの井戸水で作ったお神酒をお供えたという

国道2号線

山陽本線



国道2号線三原バイパスの道の駅「神明の里」玄関から東に約400mの側道脇にあります。2mを越える見事な注連柱の奥に、石燈籠に守られた石組があります。「大將軍」と刻まれた塔芯部は29cm×25cm角柱で、高さは43cmあります。平成27年12月18日参拝時には、神事直後と思われる真新しいしめ縄が飾られてありました。

2. 下大將軍神社



上記の「神明の里」玄関から北西約300mの山中で、緩やかな階段を登った先の藪をかきわけて進んだ平地にありました。

元は藁ぶき屋根でしたが、移設の際に銅板葺きに改造されました。



〔三菱三原病院前に残る石柱〕

3. 大將軍若宮神社



上記の「下大將軍神社」より西方約100mの山中に胡神社と隣設してあります。「下大將軍神社」と同様に、移設時に社は改造されました。

神明の里や三菱三原病院の駐車場からも木立ちの隙間にこの社の屋根部を識別できます。

＜大將軍神社の祭り＞

大將軍神社の起こりは、「広辞苑」に記載された通りかもしれません。インターネットには、その方向にある土を動かしてはならないとの言い伝えから、下水道工事が進まない地方もあるという例が紹介されています。しかしながら、糸崎地域では氏神的な存在だったようで、この社をお守りして来た人々は、毎年6月と11月に手製の御馳走を持ち寄って祝っていたそうです。

＜後継者問題＞

大將軍神社は多い時にそれぞれ20軒以上の組単位で世話されていましたが、移転や高齢化により、軒数が減少し、下大將軍神社と大將軍若宮神社は、世話役が途絶えているのは、誠に残念です。

＜他の地域の例＞

三原市内で聴取したところ社が残っているのは、糸崎地域だけのようです。但し、西野、大和町、久井町には小字で地名として残っています。本郷・小泉・沼田西方面でも地名で残っているようですが、現在のところ、定かではありません。

おもしろクイズ

現在糸崎地域に残る大將軍神社は三つあります。この三つの神社の中で、二つは事情があって、移設されました。移設をまぬがれたのはどの神社でしょうか。ヒントは本文に記載されています。

(ア) 大將軍神社 (イ) 下大將軍神社 (ウ) 大將軍若宮神社



三原のお祭り



糸碓神社「秋の例大祭」

第12号で糸碓神社「夏越の大祓」神事を紹介しました。今回は平成27年10月17日(土)と18日(日)に行われた「秋の例大祭」神事を紹介します。この祭りは、神の恩恵に感謝し神饌を供し直会を開く、元来は収穫祭を中核とするものです。

1. 10月17日(土) 前日祭 (宵宮)

(1) 〔糸碓地区子ども神輿出御巡幸〕

午後1時から神輿出御巡幸神事後、御分霊を神輿に遷してから出御でした。氏子有志に担がれた神輿に子ども達が連なり町内を巡行しました。約2時間後無事環御、御分霊はもとの御座にお鎮まりになりました。

神輿は子たちの親御さんや有志によって担がれましたが、台車を製作してほしいと要望があったそうです。時代の流れで止むを得ないと、準備の方向でおられるとのことでした。

(2) 〔御神田抜穂〕

午後4時、境内東側にある御神田に10数人が集まり、黄金色の稲穂の茎を静かに引いて抜きました。

この抜穂は束にして神事の神棚へお供えされました。



〔御神田で抜穂をする人たち〕

(3) 〔宵宮神楽〕



〔天井に駆け上った悪狐〕

午後7時から例年通り、広島市佐伯区八幡東の高井神楽団(団長以下21名)による神楽奉納。演目は「神降ろし」に続き「塵倫」「戻り橋」「悪狐伝」「大江山」「八岐大蛇」でした。

新参集殿舞台において熱演が続き、午後11時終演と予定されていましたが、午前零時30分までとなりました。

「悪狐伝」では悪狐が天井まで駆け上がったたり、鬼たちは客席において歩き回り、泣く子ども・笑う大人たち、観客と演者が溶け合っって楽しい時間が流れました。

2. 10月18日(日) 大祭

午前9時30分から神事齊行、宮司以下祭員参進、位置につき厳かに神事が執り行われました。宮司の他祭員は8名、巫女が6名、氏子崇敬者ら50名余りが参列。終わって新参集殿に移動して直会でした。

神事終了後、奉納子ども相撲大会が役員に見守られながら境内の土俵で行われました。男の子も女の子も体育のショートパンツの上に規定のまわしをつけ、ハッケヨイ・ノコッタ・ノコッタと頑張ります。成績は、低学年の優勝は“天神A組”準優勝“大浜”、第3位“天神B組”でした。高学年は優勝“大浜”準優勝“天神A組”第3位“糸碓東チーム”でした。



〔頑張った低学年の相撲〕

今年は10月15日午前9時から、役員総代氏子有志の方々に、社殿境内の清掃や装飾などなど、大祭準備が行われたそうです。新参集殿での神楽奉納やおでん接待などで思わぬ変更があったそうですが、上手に対応されて上首尾で終わったそうです。

そして、撤収は大祭当日の夕刻4時から実施、手際よく片付けられて終了したそうです。

(糸碓神社新報を参考にしました)

石碑が語る三原の歴史

糸崎に「道の駅 みはら神明の里」がオープンして4年近くになり、多くの人が立ち寄っています。三原バイパスの計画時、当初は計画に無かったが、あまりにも景色が良いので、視察した建設省の役人が道の駅の設置を決めたそうです。糸崎には歴史を語る石碑が多くあるのでこれらを紹介し、糸崎の良さを知ってもらい、道の駅を訪れる方々に見事な景観を満喫してもらいたいと思います。

道 標



糸碓神社のすぐ東の旧国道の傍に西国街道の「六本松一里塚跡」の石柱が建っています。実際にあった位置は少し東の現在山陽本線が通っている辺りのようです。

一里塚は道中の休憩の目安にされていたようで、旅人は近くの糸碓神社で旅の安全を祈願し、ここからの見事な景色を眺めながら一休みし、旅の疲れを癒したことでしょう。

西国街道の情景を記録したものは少ないが、ここには安政3(1856)年に九州八代(やつしろ)の殿様が、江戸への道中記録にと絵師に描かせた絵図が残っています。八代博物館にある原図を、郷土史家が2m40cmもある原寸大のコピー図にして8年前に糸碓神社に奉獻されたものです。

街道には松並木が続いていたそうですが、沖の島々を遠景に松並木が描かれ、おまけに当時の茶屋、民家や現在も枯株が残っている神功皇后伝説の船繫松の元気な時の様子が描

〔糸崎の「六本松一里塚跡」の石柱〕 かれた見事な絵図で、当時の情景が偲べれます。



〔茶屋と民家〕



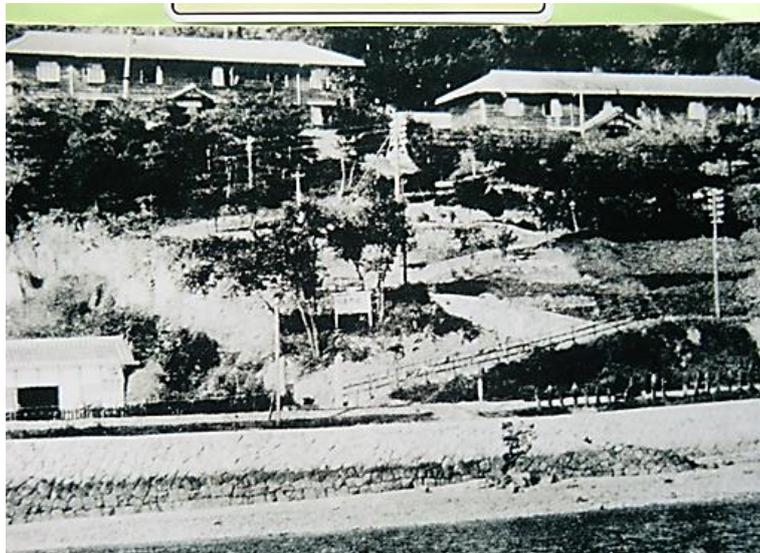
〔松並木と神功皇后船繫松(下がり松)〕

〔安政3(1856)年頃の糸碓神社付近の情景絵図〕 (部分図) 糸碓神社蔵

記念碑



〔療養所跡入口の「桂田濱」の碑〕



〔在りし日の日赤結核療養所〕

かつて日本では、肺結核に罹病するものが多く、亡国病と恐れられていました。特效薬もなく、空気が良く眺めの良い地でのんびりと療養するのが一番の薬といわれていました。

糸崎神社の東の海岸からの芸予諸島の眺めは素晴らしく、ここに日本赤十字社の広大な肺結核療養所が大正14(1925)年に設けられ、多くの肺結核患者が療養に訪れました。

医学が進歩し、肺結核は絶滅に近く、昭和39(1964)年に療養所は閉鎖されました。

現在、廃墟となった療養所の雑草の中に「桂田濱」の碑がひっそりと建っています。題字は最後の広島藩主浅野長勲侯の筆によるもので、高さ190cm、幅140cm、台座高さ60cmの立派なものです。

現在は福山市になっている神辺町片山で流行した「片山病」という風土病の研究で有名な桂田富士郎博士は岡山医専と福岡医大で教鞭をとっていた時、山陽本線でこの地をいつも通過していました。

研究の為、外国へもたびたび行かれた博士ですが、この景色が世界一だと絶賛していました。そして弟子にこの地で肺結核の療養所を開かせていました。

日本赤十字社が本格的な肺結核の療養所を計画している時、桂田博士はこの糸崎の地が最適と推薦し、設置に至ったそうです。ここで多くの患者が療養して助かり喜ばれました。

糸崎町の有志が桂田博士のこの功績を讃え、この海岸の地を「桂田濱」と名付け、立派な頌徳碑を昭和9(1934)年に療養所の入り口の門の傍に建てました。

肺結核が絶滅に近くなり療養所の必要が無く、閉所されたことは喜ばしいことであるが、ここは現在訪れる人もなく、しかも野猪の害を防ぐため垣が設けられて雑草に蔽われ、桂田博士の功績が人々の脳裏から消えてしまいつつあることは、非常に寂しく感じます。

句碑・詩碑



正面

右側面

慈雲菴暁
 法の師がさむや
 櫛のつゆとめて
 やとれる慈雲の
 有明の月
 憲盛



昭和卅七年五月
 仙量建

〔慈雲菴暁月〕の碑]

糸崎の山手に三原バイパス建設で立ち退き、一昨年移築された曹洞宗慈雲寺があります。慈雲寺は以前慈雲庵という尼寺でしたが、昭和50(1975)年に慈雲寺と改称されました。

この慈雲寺の境内に「慈雲菴暁月」の碑があります。高さ80cm、幅65cm、奥行30cm、台座高さ45cmの立派な石碑です。

慈雲菴暁月 法の師がさむや 櫛(しきみ)のつゆとめて やとれる慈雲の 有明の月 憲盛と書かれています。

詠まれたのは憲盛という方のようですが、詳しい経歴は分かりません。この歌に共鳴された、時の庵主、慈雲庵第八世仙量尼が昭和37(1962)年に自費で建てられたものです。

この歌は大正元(1912)年に刊行された、澤井常四郎先生編著の「増補 三原志稿」で三原名勝 和歌俳句 の項に発表された長井浦八景の中にあるものです。

長井浦八景が詠まれた時期は分かりませんが、当時の糸崎の名勝八景を詠んだものと考えられます。糸崎の地および糸崎からの眺めも含まれるようです。

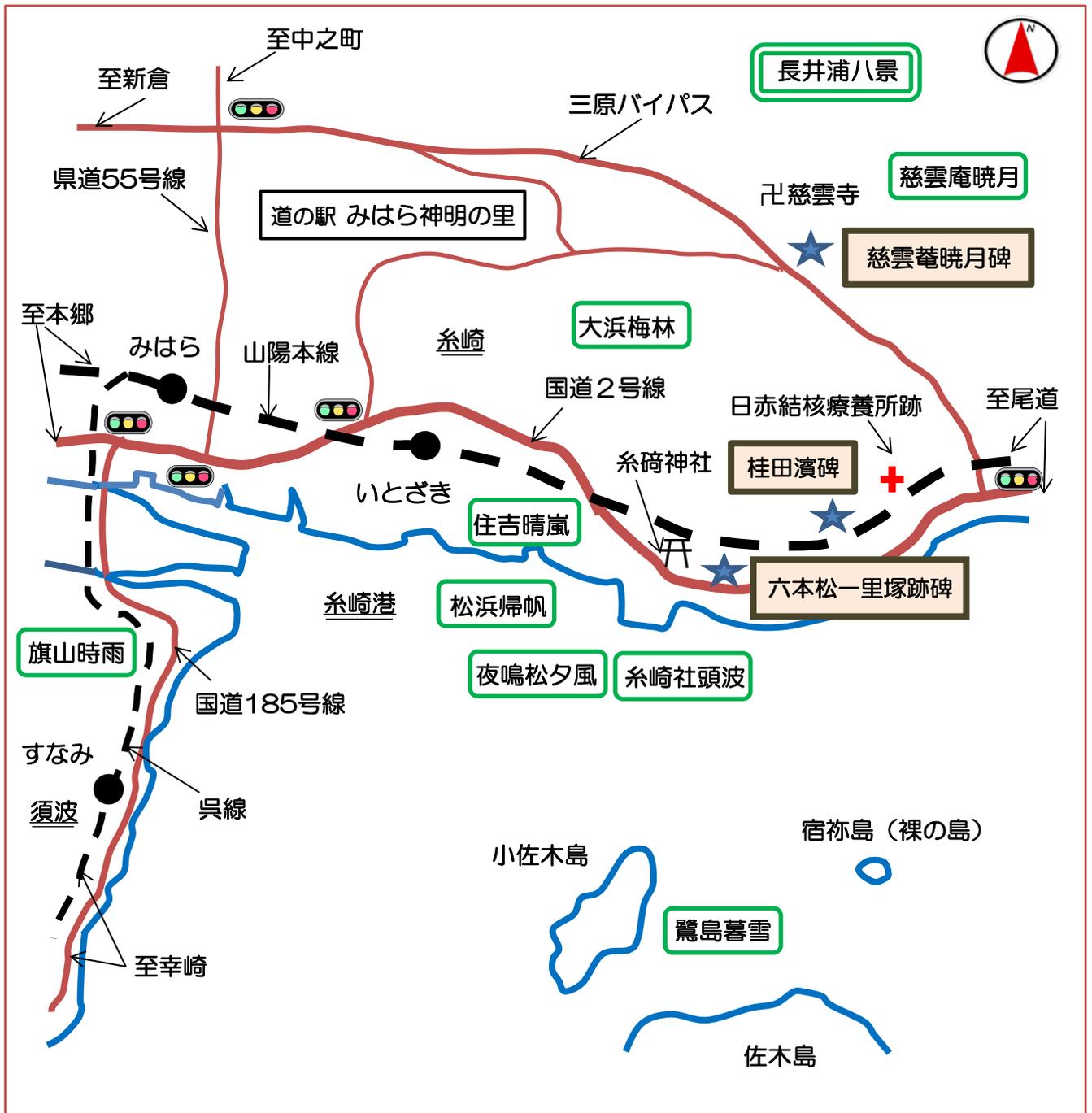
長井浦八景を列記しますが、紙面の都合で各歌は省略し、そのままでは地名その他現在では通用しないものもあるようで、カッコ内に注釈を記入します。

大浜梅林(糸崎の山手の地名)、 慈雲庵暁月(現在の慈雲寺)、 旗山時雨(筆影山、竜王山)、
 鷺島暮雪(佐木島、小佐木島)、 住吉晴嵐(住吉神社付近)、 松浜帰帆(松浜港)、
 夜鳴松夕風(神功皇后伝説の船繫松、下がり松付近)、 糸崎社頭波(糸崎神社沖)

勿論、海面の埋め立や人家の増加で当時の情景とは異なってはいますが、自然の山野、沖の島々は往時のままで見事です。

折角できた道の駅です。展望デッキからの眼下に広がる景勝を充分鑑賞してもらいたいものです。

概略マップ





三原にある狛犬



今回は、本郷地区北方・南方の狛犬を紹介します。（神社の由緒説明文は広島県神社誌による）

31. 宮川神社（旧称 山王社） 三原市下北方2丁目

創祀年代は不詳ですが、梨和城主田中時春の崇敬の社といえます。慶長5（1600）年、毛利輝元の楽音寺寄進状に「山王社領、八石余」と記されています。すぐ近くに県史跡梅木平古墳と国史跡横見廃寺跡があります。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	62	27	50
吽形	62	27	47
年代	明治 3(1870)年		
石工	不明		
石材	砂岩		
型	お座り型		



32. 甕天満神社（通称 茅の市天神さん） 三原市下北方2丁目原市

菅原道真公が左遷され、九州大宰府に赴任の途次、この地に船を繋ぎ、自ら井戸を掘り、食を求められ、里人は甕にて蒸し物を奉ったといえます。里人その故をもって社殿を建立し甕天満神社と称したといえます。今に至るも井戸水の涸れることはないそうです。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	100	35	67
吽形	100	35	70
年代	安政 3(1856)年 9月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



33. 南方神社（通称 宗長神社） 三原市本郷町南方尾原上

文永5（1268）年 藤原行高公が当国へ下向の時この山に登って山の名を尋ね、里人が宗長と申し上げるに、良き宮居の地かなと申され、その後、男山（石清水八幡宮）のご祭神を勧請し篤く崇敬し、社領を付与したと伝えられています。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	96	28	57
吽形	97	28	57
年代	明治 33(1900)年 1月		
石工	尾道 石本和助		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		

